

## エペソ人への手紙 第1章 4節

「すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。」

祝福のみことばのあとに、すなわちと続く。祝福はそれを聞き信じて受ける者についての良きことの言及である。祝福される者は、自分の世界では気付かなかった良き事柄を知らされる。事実気づかされる。祝福のときは誰にとっても喜びの機会である。

すなわち、に続く祝福の内容がある。私たちが世界の基の置かれる前から眼差しを注ぐお方、神がおられる途方もない祝福である。私たちが存在する、いや世界が現れる前から眼差しを注ぐお方がおられる良きことである。私たち自身で、私たちのことを支え、導き、完成させることはない、出来ないのである。どなたが自分のいのちの源を知り、そのいのちの道を予測し、いつ終わりが来るのか知るだろうか。誰も居ない。

自分たちのときの前に、眼差しを注いでくださる神は、自分たちをご自身にあって選び、御前で聖くし、御前に立つことができる者としてくださるので。傷ついた私どもを、傷のない者にしようとしてください。その永遠なる愛の摂理をみことばによって知らされるとき、今日限られた時を刻みあくせくする者の愚かなることに気付かされる。

2023年8月17日